

川と海のつながりが育む 豊かな文化と生態系

趣旨

瀬戸内海は、海域に面している地域の人々だけでなく、流域の内陸地域に住む人々と一体となって保全することが不可欠です。しかしながら、内陸地域の人々は、瀬戸内海の保全について意識を持ちにくい現実があります。このため、内陸地域と瀬戸内海との関わりについて様々な側面から協議することにより、本海域の保全に対する意識を高めることが重要です。

今回のフォーラムでは、瀬戸内海沿岸部と内陸部それぞれにおける生活・文化、汚濁負荷などの諸課題に焦点を当てるとともに、川を介した森や海そして人々の生業との連環、さらには類似の課題を抱える琵琶湖の生態系について議論することとしています。京都は、古来より衣食住や文化において水域と深い関わりを持ってきましたが、閉鎖性の強い瀬戸内海と琵琶湖を比較することで、共通の課題やそれぞれの環境保全における新たな展開を模索していきたいと考えています。



主催：特定非営利活動法人 瀬戸内海研究会議
京都大学大学院地球環境学学

日時 平成29年9月6日（水）12:30-17:40（予定）

7日（木）09:00-15:00（予定）

会場 京都大学百周年時計台記念館 2階 国際交流ホールⅡ,Ⅲ
（京都市左京区吉田本町 <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/>）

参加料等

シンポジウム： 無料

懇親会： 下記（会場：カンフォーラ）

【事前申込】一般参加：4,500円 学生：2,000円

【当日申込】一般参加：5,000円 学生：2,500円

（支払いは当日会場をお願いします）

参加申込

8月31日（木）締切。氏名・所属・住所・電話番号を明記、Eメール、FAX、郵送にてお申し込み下さい。

申込先・問い合わせ先

（特非）瀬戸内海研究会議事務局（担当：冨家）

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通

1-5-2 人と防災未来センター 東館5階

瀬戸内海環境保全協会内

TEL 078-241-7720 FAX 078-241-7730

E-mail: web@seto.or.jp

<http://www.seto.or.jp/kenkyu/forum/kyoto>



9月6日

受付 12:30-13:00

開会（挨拶・祝辞） 13:00-13:15

趣旨説明 13:15-13:25

運営委員長 藤井 滋穂（京都大学 教授）

第1セッション 13:30-15:30

都市をささえる景観：瀬戸内海国立公園から学ぶ

座長：阿部 健一（総合地球環境学研究所 教授）

- 瀬戸内の歴史景観：行き交う人の賑わい
恵谷 浩子（奈良文化財研究所 研究員）
- 丹波高原の歴史と未来
高御堂 厚（南丹市美山観光まちづくり協会 事務局長）
- 古いものを新しい時代に活かす：想像力と構想力
山 泰幸（関西学院大学 教授）
- 総合討論

ポスター発表セッション 15:40-17:40

環境保全・創造に関する研究・活動報告

- ポスターフラッシュ口頭発表
座長：岡本 侑樹（京都大学 助教）
- ポスター前説明・発表
会場責任者：原田 英典（京都大学 助教）

総会 17:45-18:15

懇親会 18:20-19:50

9月7日

第2セッション 9:30-11:30

生物生産からみた流域と沿岸域の相互関係

座長：山下 洋（京都大学 教授）

- 地下水と沿岸域生態系
- 見えない水の役割を考える-
杉本 亮（福井県立大学 准教授）
- 海と川をつなぐニホンウナギ
板倉 光（神戸大学 日本学術振興会特別研究員）
- 瀬戸内海東部における生態系構造の変化
山本 昌幸（香川県水産試験場 主任研究員）
- 流域の構造と水圏生物の生産
山下 洋（京都大学 教授）
- 総合討論

第3セッション 12:30-14:30

豊かな生態系の琵琶湖との共生を探る

座長：中野 伸一（京都大学 教授）

- 琵琶湖の水質保全の現状と新たな動き
早川 和秀（滋賀県琵琶湖環境科学センター 副部門長）
- 琵琶湖の底にあるちょっと変わった食物連鎖
中野 伸一（京都大学 教授）
- 水草の持続的利用による現代版里湖循環型社会の可能性
伴 修平（滋賀県立大学 教授）
- 総合討論

総括・閉会 14:30-15:00

- ポスター賞表彰

ポスター掲示 9/6(火) 12:30- 9/7(水)12:30

参加申込書

平成29年度 瀬戸内海研究
フォーラムin京都

氏名

所属

住所

TEL

E-mail

フォーラム 参加 （ 瀬戸内海研究会議会員 ・ 学生 ・ 一般 ）

懇親会 参加 ・ 不参加

該当箇所に○印をおつけください。